

修正内容一覧

物質ID	物質名	CAS番号	項目	修正前					修正後					備考		
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	注意書き		分類根拠・問題点	
22A4001	チオシアン酸カリウム	333-20-0	水生環境有害性 (長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BIOWIN)が、魚類(ニマス)の124日間NOEC(繁殖) = 1.1 mg/L であることから区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BIOWIN)が、魚類(フットヘッドミノ)の124日間NOEC(繁殖) = 1.1 mg/L (ECETOC TR91, 2003) であることから区分外とした。	2016.3修正
22A4004	炭酸カリウム	584-08-7	水生環境有害性 (急性)	区分外	-	-	-	-	甲殻類(ニセネコゼミジンコ)の48時間EC50 = 630 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分外とした。	区分外	-	-	-	-	甲殻類(ニセネコゼミジンコ)の48時間LC50 = 630 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分外とした。	2016.3修正
22A4017	硝酸亜鉛(II)六水和物	10196-18-6	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分2(全身毒性)	健康有害性	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(全身毒性)	P309+P311: 暴露したとき、又は気分が悪いとき、医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は、よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を、に廃棄す	ラットおよびマウスに経口投与により、死亡の大部分は最初の48時間内発生し、毒性症状として、縮瞳、結膜炎、摂餌量と体重の低下、尾の出血と血液生成がみられ、生存例では時間とともに消失し、LD50値はラットで1330 mg/kg、マウスで1452 mg/kgと報告されている(EHC 221(2001))。LD50値から区分2相当であるが、標的臓器を特定できないので区分2(全身毒性)とした。	区分2(全身毒性)	健康有害性	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(全身毒性)	P309+P311: 暴露したとき、又は気分が悪いとき、医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は、よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を、に廃棄す	ラットおよびマウスに経口投与により、死亡の大部分は最初の48時間内発生し、毒性症状として、縮瞳、結膜炎、摂餌量と飲水量の低下、尾の出血と血液生成がみられ、生存例では時間とともに消失し、LD50値はラットで1330 mg/kg(六水和物として2089mg/kg)、マウスで928mg/kg(六水和物として1452 mg/kg)と報告されている(EHC 221(2001))。LD50値から区分2相当であるが、標的臓器を特定できないので区分2(全身毒性)とした。	2016.3修正
22A4021	亜リン酸	13598-36-2	水生環境有害性 (急性)	区分外	-	-	-	-	魚類(メダカ)での96時間LC50 = 6980-9784 mg/L (IUCLID, 2000) であることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	魚類(ゼブラフィッシュ)での96時間LC50 = 6980-9784 mg/L (IUCLID, 2000) であることから、区分外とした。	2016.3修正
22A4022	メタバナジン酸ナトリウム	13718-26-8	水生環境有害性 (急性)	区分2	-	-	H401: 水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を、に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 2.3 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分2とした。	区分2	-	-	H401: 水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を、に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 2.3 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分2とした。	2016.3修正
22A4024	エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム	64-02-8	水生環境有害性 (急性)	区分2	-	-	H401: 水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を、に廃棄すること。	藻類(Scenedesmus quadricauda)の72時間EC50 = 1.01 mg/L (EU-RAR, 2004, IUCLID, 2000) であることから、区分2とした。	区分2	-	-	H401: 水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を、に廃棄すること。	藻類(Scenedesmus subspicatus)の72時間EC50 = 1.01 mg/L (EU-RAR, 2004, IUCLID, 2000) であることから、区分2とした。	2016.3修正
22A4024	エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム	64-02-8	水生環境有害性 (長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分2であるが、 本物質の慢性区分に関しては、OECD-ガイダンス文書No.23からも真の毒性ではなく、この毒性値を適用するべきではないとの専門家判断により、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分2であるが、 急性毒性の分類に使った毒性値はOECD-ガイダンス文書No.23からも真の毒性ではなく、本物質の慢性区分にこの急性毒性値を適用するべきではないとの専門家判断により、区分外とした。	2016.3修正
22A4026	2-ブチン-1,4-ジオール	110-65-6	水生環境有害性 (長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(OECD301におけるDOCによる分解度: 100%) (EU-RAR, 2005)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow = -0.93 (EU-RAR, 2005)) ことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(OECD301におけるDOCによる分解度: 100%) (EU-RAR, 2005)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow = -0.93 (PHYSPROP Database, 2009)) ことから、区分外とした。	2016.3修正
22A4029	ジソデシルフラト	26761-40-0	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分外	-	-	-	-	ラットにガイダンス値範囲を大きく超える15000 mg/kgの経口投与で死亡および症状の発現はなく、剖検における変化も観察されていない(EU-RAR 36 (2003))。また、ウサギにガイダンス値範囲を超える3130 mg/kgの経皮投与により、擦過皮膚では食欲不振などの一般症状および剖検時に肺の暗赤色が観察されたが、健康皮膚では局所影響として皮膚の紅斑を認めたのみで全身毒性は認められず(EU-RAR 36 (2003))。ラットに2910 mg/kgの経皮投与においても一般症状および剖検時の病理学的異常は見出されていない(EU-RAR 36 (2003))。さらに、ラットにミストのばく露による急性吸入毒性試験(5.6, 9.72, 12.54 mg/L)では、試験濃度全てがガイダンス値範囲を超えており、ばく露後の症状として興奮と粗毛があり、剖検による唯一の病理学的所見として、肺に多数の暗赤色の病巣が投与群でより高濃度で見られたと報告されているのみである(EU-RAR 36 (2003))。以上の動物試験の結果に基づき、経口、経皮および吸入の3経路とも区分外に相当すると判	区分外	-	-	-	-	ラットにガイダンス値範囲を大きく超える15000 mg/kgの経口投与で死亡および症状の発現はなく、剖検における変化も観察されていない(EU-RAR 36 (2003))。また、ウサギにガイダンス値範囲を超える3160 mg/kgの経皮投与により、擦過皮膚では食欲不振などの一般症状および剖検時に肺の暗赤色が観察されたが、健康皮膚では局所影響として皮膚の紅斑を認めたのみで全身毒性は認められず(EU-RAR 36 (2003))。ラットに2910 mg/kgの経皮投与においても一般症状および剖検時の病理学的異常は見出されていない(EU-RAR 36 (2003))。さらに、ラットにミストのばく露による急性吸入毒性試験(5.6, 9.72, 12.54 mg/L)では、試験濃度全てがガイダンス値範囲を超えており、ばく露後の症状として興奮と粗毛があり、剖検による唯一の病理学的所見として、肺に多数の暗赤色の病巣が投与群でより高濃度で見られたと報告されているのみである(EU-RAR 36 (2003))。以上の動物試験の結果に基づき、経口、経皮および吸入の3経路とも区分外に相当すると判	2016.3修正

22A4029	ジイソデシルフタレート	26761-40-0	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	藻類、甲殻類、魚類いずれにおいても、水溶解度(0.18 mg/L) 付近までの濃度において、影響がみられていないことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	藻類、甲殻類、魚類いずれにおいても、水溶解度(0.18 mg/L) 付近までの濃度において、影響がみられていない。(EU-RAR, 2003) ことから、区分外とした。	2016.3修正
22A4029	ジイソデシルフタレート	26761-40-0	水生環境有害性(長期間)	区分4	-	-	H413: 長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	水溶解度までの濃度で急性水生毒性が報告されており(水溶解度: 0.28 mg/L (PHYSPROP Database, 2011))、急速分解性がなく(OECD 301C: BOD 54% (EU-RAR, 2003))、 log Kow > 4 (10.36 (PHYSPROP Database, 2011)) であることから、区分4とした。	区分4	-	-	H413: 長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	水溶解度までの濃度で急性水生毒性が報告されており(水溶解度: 0.28 mg/L (PHYSPROP Database, 2011))、急速分解性がなく(OECD 301C: BOD 54% (EU-RAR, 2003))、 log Kow = 10.36 (>4) (PHYSPROP Database, 2011) であることから、区分4とした。	2016.3修正
22A4030	4-ノニルフェノール(分枝)	84852-15-3	水生環境有害性(急性)	区分1	環境	警告	H400: 水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	藻類 (Skeletonema costatum) の96時間EC50 = 0.027 mg/L (EU-RAR, 2002) から区分1とした。	区分1	環境	警告	H400: 水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	藻類 (Skeletonema costatum) の96時間EC50 = 0.027 mg/L (EU-RAR, 2002) から区分1とした。	2016.3修正
22A4034	ノルマルブチルベンゼン	104-51-8	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-	-	in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験で陰性(有害性評価書(Access on June 2010))の情報があ	分類できない	-	-	-	-	in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験で陰性(内分法かく乱作用に関する試験結果及び有害性評価書(Access on June 2010))の情報があ	2016.3修正
22A4034	ノルマルブチルベンゼン	104-51-8	生殖毒性	分類できない	-	-	-	-	ラットを用いた強制経口投与による2世代繁殖毒性試験において、肝臓および腎臓に重量増加、病理組織学的変化がみられた用量でF0雌雄親動物の繁殖能力に影響を及ぼさず、F1親動物の繁殖能に影響を及ぼす可能性は少ないと考えられ、また、F1及びF2仔動物に対しても悪影響は見出されていない(経産省生殖試験(Access on June 2010))。したがって、当該物質が重篤な生殖毒性を惹起する物質であるとは考え難いが、催奇形性を含む仔の発生に対する影響に関してはデータ不足のため「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-	-	ラットを用いた強制経口投与による2世代繁殖毒性試験において、肝臓および腎臓に重量増加、病理組織学的変化がみられた用量でF0雌雄親動物の繁殖能力に影響を及ぼさず、F1親動物の繁殖能に影響を及ぼす可能性は少ないと考えられ、また、F1及びF2仔動物に対しても悪影響は見出されていない(内分法かく乱作用に関する試験結果及び有害性評価書(Access on June 2010))。したがって、当該物質が重篤な生殖毒性を惹起する物質であるとは考え難いが、催奇形性を含む仔の発生に対する影響に関してはデータ不足のため「分類できない」とした。	2016.3修正
22A4037	2,6-ジメチルヘプタン-4-オール	108-82-7	自然発火性液体	区分外	-	-	-	-	発火点は257°Cであり(Weiss (2nd, 1986))、常温で発火しないと考えられる。	区分外	-	-	-	-	発火点は257°Cであり(Weiss (2nd, 1986))、常温で発火しないと考えられる。	2016.3修正
22A4037	2,6-ジメチルヘプタン-4-オール	108-82-7	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B	-	警告	H320: 眼刺激	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P264: 取扱後は... よく洗うこ	ワサギを用いた試験で軽度の刺激性 (slightly irritating)の結果 (PATTY (5th, 2001))、およびワサギを用いた別の試験ではごく軽度で一過性のグレード2の傷害(グレード10が最も重度)を起したとの報告(HSDB (2002))に基づき、区分2Bとした。なお、ヒトでは蒸気ばく露により0.5%の濃度で眼に刺激を生じる(HSDB (2002))とも述べられている。	区分2B	-	警告	H320: 眼刺激	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P264: 取扱後は... よく洗うこ	ワサギを用いた試験で軽度の刺激性 (slightly irritating)の結果 (PATTY (5th, 2001))、およびワサギを用いた別の試験ではごく軽度で一過性のグレード2の傷害(グレード10が最も重度)を起したとの報告(HSDB (2002))に基づき、区分2Bとした。なお、ヒトでは蒸気ばく露により5ppmの濃度で眼に刺激を生じる(HSDB (2002))とも述べられている。	2016.3修正
22A4038	6-メチル-5-ヘプテン-2-オン	110-93-0	水生環境有害性(急性)	区分3	-	-	H402: 水生生物に有害	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	魚類 (キンギョ) による96時間LC50 = 68 mg/L (SIDS, 2005) より、区分3とした。	区分3	-	-	H402: 水生生物に有害	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	魚類 (ゴールドンオルフェ) による96時間LC50 = 68 mg/L (SIDS, 2005) より、区分3とした。	2016.3修正
22A4038	6-メチル-5-ヘプテン-2-オン	110-93-0	水生環境有害性(長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(OECD TG301FでのBOD分解度: 91% (SIDS, 2005))、かつ生物蓄積性が低いと推定される (log Kow = 2.4 (PHYSPROP Database, 2011)) ことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(OECD TG301FでのBOD分解度: 91% (SIDS, 2005))、かつ生物蓄積性が低いと推定される (log Kow = 2.4 (SIDS, 2005)) ことから、区分外とした。	2016.3修正
22A4041	7-メチル-3-メチレン-1,6-オクタジエン	123-35-3	水生環境有害性(急性)	区分1	環境	警告	H400: 水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の72時間EC50 = 0.45 mg/L (環境庁生態影響試験, 1998) から区分1とした。	区分1	環境	警告	H400: 水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容	甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50 = 0.45 mg/L (環境庁生態影響試験, 1998) から区分1とした。	2016.3修正

22A4048	3,4-ジクロロ-1-ブテン	760-23-6	生殖毒性	分類できない	-	-	-	-	ラットの経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECD TG 422: GLP)において、親動物の交尾率、受胎率、妊娠期間、分娩率、分娩および哺育状態など性機能および生殖能に影響は認められず、また、仔動物にも、出産仔数、 生存数 、性比、出生率および形態などに、被験物質投与の影響は認められなかった(厚労省報告(1996))が、仔の発生に及ぼす影響に関しては妊娠末期の胎仔検査が行われていないので、データ不十分のため「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-	ラットの経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECD TG 422: GLP)において、親動物の交尾率、受胎率、妊娠期間、分娩率、分娩および哺育状態など性機能および生殖能に影響は認められず、また、仔動物にも、出産仔数、 生存数 、性比、出生率および形態などに、被験物質投与の影響は認められなかった(厚労省報告(1996))が、仔の発生に及ぼす影響に関しては妊娠末期の胎仔検査が行われていないので、データ不十分のため「分類できない」とした。	2016.3修正	
22A4053	2-ブロポキシエタノール	2807-30-9	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	魚類96時間 LC50及び甲殻類48時間 EC50が5000 mg/L以上であることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	魚類96時間 LC50及び甲殻類48時間 EC50が5000 mg/L以上(SIDS, 2004)であることから、区分外とした。	2016.3修正	
22A4053	2-ブロポキシエタノール	2807-30-9	水生環境有害性(長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分外であり、急速分解性があり(28日)でのBOD分解度=100%(SIDS, 2004)、LogPow=0.08(PHYSROP Database, 2011)であることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	急性毒性区分外であり、急速分解性があり(20日)でのBOD分解度=100%(SIDS, 2004)、LogPow=0.08(PHYSROP Database, 2011)であることから、区分外とした。	2016.3修正	
22A4055	1,3-ジメトキシベンゼン	151-10-0	水生環境有害性(急性)	区分2	-	-	H401: 水生生物に	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	H401: 水生生物に放出を避けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	区分2	-	-	-	急性毒性区分外であり、急速分解性があり(28日)でのBOD分解度=100%(SIDS, 2004)、LogPow=0.08(PHYSROP Database, 2011)であることから、区分外とした。	データなし	2016.3修正
22A4055	1,3-ジメトキシベンゼン	151-10-0	水生環境有害性(長期毒性)	区分2	環境	-	H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	区分2	-	-	-	急性毒性区分2であり、急速分解性に関するデータが入手されないことから、区分2とした。	データなし	2016.3修正
22A4063	ジプロピレングリコールメチルエーテル	34590-94-8	水生環境有害性(長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分外であり、難水溶性でない(水溶解度=100 g/L(PHYSROP Database, 2011))ことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	急性毒性区分外であり、難水溶性でない(水溶解度=100000 mg/L(PHYSROP Database, 2011))ことから、区分外とした。	2016.3修正	
22A4064	酸化セリウム(IV)	1306-38-3	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(肺)	健康有害性	危険	H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(肺)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	セリウム等の希土類元素ヒュームのばく露を長年に亘り受けた労働者の肺では希土類元素の蓄積が見られ、肉芽腫、気腫、間質の線維化の肺病変と肺活量の低下が報告されている(「環境省リスク評価 第8巻(2010)」。また、酸化セリウム研毒剤にばく露後少なくとも15年以上経過して、呼吸困難のため来院した58歳の男性に軽度の胸膈肥厚と肺閉塞が見られ、病理検査の結果、慢性肥厚性胸膈炎と診断された事例(「環境省リスク評価 第8巻(2010)」、35年間光学レンズの研磨作業に従事し、離職後13年経過してから酸化セリウムのばく露に関連する希土類元素じん肺が判明した68歳男性の事例(PATY(5th, 2001))など、希土類元素の肺における長期間の残留を示すもの)であり、酸化セリウムのばく露が関与しているとされる有害事象発生の報告は多い。一方、ラットに粉塵ばく露による13週間反復吸入試験において、剖検では5 mg/m ³ 以上のほぼ半数で 縦隔筋 の拡張、退色、全例で気管支リンパ節の変化、51 mg/m ³ 以上の全動物で肺の退色、組織検査では、5 mg/m ³ 以上の雌雄の気管支リンパ節でリンパ組織増生、色素沈着、肺で色素沈着、51 mg/m ³ 以上の雌雄の肺で肺膈上皮の過形成、咽頭で化生及び色素沈着がそれぞれ認められ(「環境省リスク評価 第8巻(2010)」、影響はガイダンス値区分1の範囲を含む)、以上のヒトおよび動物の知見に基づき区分1(肺)とした。	区分1(肺)	健康有害性	危険	H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(肺)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	セリウム等の希土類元素ヒュームのばく露を長年に亘り受けた労働者の肺では希土類元素の蓄積が見られ、肉芽腫、気腫、間質の線維化の肺病変と肺活量の低下が報告されている(「環境省リスク評価 第8巻(2010)」。また、酸化セリウム研毒剤にばく露後少なくとも15年以上経過して、呼吸困難のため来院した58歳の男性に軽度の胸膈肥厚と肺閉塞が見られ、病理検査の結果、慢性肥厚性胸膈炎と診断された事例(「環境省リスク評価 第8巻(2010)」、35年間光学レンズの研磨作業に従事し、離職後13年経過してから酸化セリウムのばく露に関連する希土類元素じん肺が判明した68歳男性の事例(PATY(5th, 2001))など、希土類元素の肺における長期間の残留を示すもの)であり、酸化セリウムのばく露が関与しているとされる有害事象発生の報告は多い。一方、ラットに粉塵ばく露による13週間反復吸入試験において、剖検では5 mg/m ³ 以上のほぼ半数で 縦隔筋 の拡張、退色、全例で気管支リンパ節の変化、51 mg/m ³ 以上の全動物で肺の退色、組織検査では、5 mg/m ³ 以上の雌雄の気管支リンパ節でリンパ組織増生、色素沈着、肺で色素沈着、51 mg/m ³ 以上の雌雄の肺で肺膈上皮の過形成、咽頭で化生及び色素沈着がそれぞれ認められ(「環境省リスク評価 第8巻(2010)」、影響はガイダンス値区分1の範囲を含む)、以上のヒトおよび動物の知見に基づき区分1(肺)とした。	2016.3修正
22A4066	セカンダリ-ブチルアミン	13952-84-6	水生環境有害性(急性)	区分3	-	-	H402: 水生生物に有害	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	魚類(キンギョ)での96時間 LC50 = 46-48 mg/L(HSDB, 2008)であることから、区分3とした。	区分3	-	-	H402: 水生生物に有害	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	魚類(コイ科の一種)での96時間 LC50 = 46-68 mg/L(HSDB, 2008)であることから、区分3とした。	2016.3修正
22A4075	ガンマ-ブチロラクトン	96-48-0	特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	-	-	-	-	ラットおよびマウスの13週間反復経口投与試験において、両動物種とも最高用量(ラット 900 mg/kg/day、マウス 1050 mg/kg/day)で死亡例が発生し、ラットで450 mg/kg/day以上、マウスで525 mg/kg/day以上の用量で体重増加抑制や積位位が認められたが、ラットで225 mg/kg/day、マウスで262 mg/kg/dayの用量では軽度または中等度の不活発が現れた以外は毒性影響は見られない(NTP TR 406(1992))。また、ラットおよびマウスの90日間混餌投与試験のNOELは両動物種とも 8% (400 mg/kg/day)と報告され(IUCLID(2000))、ガイダンス値範囲を超えている。以上のデータから、経口経路では区分外に相当するが、他経路(吸入、経皮)についてはデータ不十分のため、特定標的臓器毒性(反復ばく露)の分類としては「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-	ラットおよびマウスの13週間反復経口投与試験において、両動物種とも最高用量(ラット 900 mg/kg/day、マウス 1050 mg/kg/day)で死亡例が発生し、ラットで450 mg/kg/day以上、マウスで525 mg/kg/day以上の用量で体重増加抑制や積位位が認められたが、ラットで225 mg/kg/day、マウスで262 mg/kg/dayの用量では軽度または中等度の不活発が現れた以外は毒性影響は見られない(NTP TR 406(1992))。また、ラットおよびマウスの90日間混餌投与試験のNOELは両動物種とも 0.8% (400 mg/kg/day)と報告され(IUCLID(2000))、ガイダンス値範囲を超えている。以上のデータから、経口経路では区分外に相当するが、他経路(吸入、経皮)についてはデータ不十分のため、特定標的臓器毒性(反復ばく露)の分類としては「分類できない」とした。	2016.3修正	

22A4076	メタクリルアミド	79-39-0	水生環境有害性 (急性)	区分外	-	-	-	-	魚類(メダカ)の96時間LC50 > 100 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 > 1000 mg/L、藻類(セレンストラム)の96時間EC50 > 1000 mg/L (いずれも環境庁生態影響試験, 1999) から、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	魚類(メダカ)の96時間LC50 > 100 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 > 1000 mg/L、藻類(セレンストラム)の72時間EC50 > 1000 mg/L (いずれも環境庁生態影響試験, 1999) から、区分外とした。	2016.3修正	
22A4077	N-メチロールアクリル	924-42-5	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	-	-	-	-	GHSの定義による液体である。	分類対象外	-	-	-	-	GHSの定義による液体である。	2016.3修正	
22A4080	4-エチルフェノール	123-07-9	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1	腐食性	危険	H318: 重篤な眼の損傷	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 P310: 直ちに医師に連絡すること	ウサギ4匹に0.1 mL/kgを適用後24時間で中等度～重度の結膜刺激(発赤、浮腫、排出物、壊死)、虹彩炎、角膜混濁、斑点、潰瘍から成る重度の刺激性を示した。適用後7日まで全例で重度の刺激が明瞭であり、1匹がパンスを、もう1匹が眼周囲の脱毛を呈した(HSDB(2003))。以上の眼への影響には不可逆的な所見も含まれているので区分1とした。	区分1	腐食性	危険	H318: 重篤な眼の損傷	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 P310: 直ちに医師に連絡すること	ウサギ4匹に0.1 mL/kgを適用後24時間で中等度～重度の結膜刺激(発赤、浮腫、排出物、壊死)、虹彩炎、角膜混濁、斑点、潰瘍から成る重度の刺激性を示した。適用後7日まで全例で重度の刺激が明瞭であり、2匹がパンスを、もう1匹が眼周囲の脱毛を呈した(HSDB(2003))。以上の眼への影響には不可逆的な所見も含まれているので区分1とした。	2016.3修正	
22A4080	4-エチルフェノール	123-07-9	水生環境有害性 (長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分2であるが、急速分解性があり(28日間のBOD分解度 = 90% (既存点検, 1994))、生物濃縮性が低いと考えられる (LogPow = 2.58)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分2であるが、急速分解性があり(14日間のBOD分解度 = 90% (既存点検, 1994))、生物濃縮性が低いと考えられる (LogPow = 2.58)	2016.3修正	
22A4081	テオブロミン(別名: 2,6-ジヒドロキシ-3,7-ジメチルプリン)	83-67-0	生殖毒性	区分1B	健康有害性	危険	H360: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ	P308+P313: 暴露又は暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P201: 使用前に取扱説明書入手すること。 P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P281: 指定された個人用保護具を使用すること。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	マウスを用いて交配の1週間前から混餌投与した生殖試験において、少なくとも複数の生殖指標に対し影響を及ぼし、妊娠母体当りの生存出生仔の割合が対照群と比べ低下し、交差交配の結果から、雌では生殖能の重度の損傷、雄では異常精子の発生増加が見出された(NTP Report # RACB83073(1984))。また、妊娠マウスの器官形成期に腹腔内投与により、口蓋裂、指欠損の奇形の発生増加、妊娠ウサギの器官形成期の経口投与においても奇形の発生が報告されている(IARC 51(1991))。以上の親の生殖能または仔の発生に及ぼす影響は、親動物で一般毒性が発現していない中間用量群でも認められていることから区分1Bとした。なお、本物質を含むココアを用いた経口によるラット3世代生殖毒性試験では、生殖に対する悪影響は見られなかったとの報告もある(IARC 51(1991))。	区分1B	健康有害性	危険	H360: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ	P308+P313: 暴露又は暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P201: 使用前に取扱説明書入手すること。 P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P281: 指定された個人用保護具を使用すること。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	マウスを用いて交配の1週間前から混餌投与した生殖試験において、少なくとも複数の生殖指標に対し影響を及ぼし、妊娠母体当りの生存出生仔の割合が対照群と比べ低下し、交差交配の結果から、雌では生殖能の重度の損傷、雄では異常精子の発生増加が見出された(NTP Report # RACB83073(1984))。また、妊娠マウスの器官形成期に腹腔内投与により、口蓋裂、指欠損の奇形の発生増加、妊娠ラットの器官形成期の経口投与においても奇形の発生が報告されている(IARC 51(1991))、Teratogenic(12th, 2007))。以上の親の生殖能または仔の発生に及ぼす影響は、親動物で一般毒性が発現していない中間用量群でも認められていることから区分1Bとした。なお、本物質を含むココアを用いた経口によるラット3世代生殖毒性試験では、生殖に対する悪影響は見られなかったとの報告もある(IARC 51(1991))。	2016.3修正	
22A4082	2,3,6-トリメチルフェノール	2416-94-6	水生環境有害性 (急性)	区分2	-	-	H401: 水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	魚類(ゴールデンオルフ)による96時間 LC50 = 4.6 mg/L (IUCLID, 2000) であることから、区分2とした。	区分2	-	-	-	H401: 水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	魚類(ファットヘッドミノ)による96時間 LC50 = 8.2 mg/L (AQUIRE, 2011; IUCLID, 2000) であることから、区分2とした。	2016.3修正
22A4082	2,3,6-トリメチルフェノール	2416-94-6	水生環境有害性 (長期間)	区分2	環境	-	H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	急性毒性区分2であり、急速分解性がない(28日間のBOD分解度 = 15% (既存点検, 2002)) ことから、区分2とした。	区分2	環境	-	-	H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器を... に廃棄すること。	急性毒性区分2であり、急速分解性がない(28日間のBOD分解度 = 1% (既存点検, 2002)) ことから、区分2とした。	2016.3修正

22A4085	オルトニトロフェノール	88-75-5	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分1(血液)	健康有害性	危険	H370: 臓器の障害(血液)	P307+P311: 暴露した場合: 医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P321: 特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	芳香族アミン化合物は一般にヒトおよび実験動物でメトヘモグロビン生成を起こすことが知られている(ATSDR(2000))。ネコに50~250 mg/kgを経口投与により用量依存的なメトヘモグロビンの生成が認められ(CICAD 20(2000))。ガイダンス値から判断すると区分1相当であることから、区分1(血液)とした。なお、ラットおよびマウスを用いた急性経口毒性試験(LD50値:ラット 2830-5376 mg/kg bw、マウス 1300-2080 mg/kg bw)において、症状所見として呼吸困難、歩行失調、震え、傾眠、無気力、痙攣、剖検では高用量で肝臓と腎臓のうっ血、および胃の潰瘍が報告されている(CICAD(J)20(2004))。症状はマウスの場合にはガイダンス値の区分2に相当以上の用量で見られているが、いずれも不明確であると記述(CICAD(J)20(2004))されている。なお、メトヘモグロビンの生成は大きく2群に分けられ、ラット/マウス/モルモット/サルは、メトヘモグロビン生成の影響を受けづらく、一般的には誘導されたメトヘモグロビンをヒト/ネコよりも効果的に低減させることができる(Biom. 2000)。ネコはメトヘモグロビン生成の影響を最も受けやすく、これはヘモグロビンの種類が異なることが最大の原因とされている(http://www.nihhs.gov/hse/chem-info/eu/eui/V65-Lpdf)。	区分1(血液)	健康有害性	危険	H370: 臓器の障害(血液)	P307+P311: 暴露した場合: 医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P321: 特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	芳香族アミン化合物は一般にヒトおよび実験動物でメトヘモグロビン生成を起こすことが知られている(ATSDR(2000))。ネコに50~250 mg/kgを経口投与により用量依存的なメトヘモグロビンの生成が認められ(CICAD 20(2000))。ガイダンス値から判断すると区分1相当であることから、区分1(血液)とした。なお、ラットおよびマウスを用いた急性経口毒性試験(LD50値:ラット 2830-5376 mg/kg bw、マウス 1300-2080 mg/kg bw)において、症状所見として呼吸困難、歩行失調、震え、傾眠、無気力、痙攣、剖検では高用量で肝臓と腎臓のうっ血、および胃の潰瘍が報告されている(CICAD(J)20(2004))。症状はマウスの場合にはガイダンス値の区分2に相当以上の用量で見られているが、いずれも不明確であると記述(CICAD(J)20(2004))されている。なお、メトヘモグロビンの生成は大きく2群に分けられ、ラット/マウス/モルモット/サルは、メトヘモグロビン生成の影響を受けづらく、一般的には誘導されたメトヘモグロビンをヒト/ネコよりも効果的に低減させることができる(Biom. 2000)。ネコはメトヘモグロビン生成の影響を最も受けやすく、これはヘモグロビンの種類が異なることが最大の原因とされている(EU-RAR(J)Vol. 65, 2006))。	2016.3修正
22A4085	オルトニトロフェノール	88-75-5	特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	-	-	-	-	ラットを用いた28日間反復経口投与試験(OECD TG 407)において、副腎重量の変化が示されているのみで、主要臓器の病理組織学的検査では投与に関連する変化はなく、高用量群の200 mg/kg/day(90日換算: 62.2 mg/kg/day)まで重大な毒性所見は認められていない(CICAD 20(2000))。また、ラットを用いた4週間蒸気吸入試験では、高用量群の60 mg/m ³ (90日換算: 0.018 mg/L)における喉甲介と鼻甲介に沿う上皮の扁平化生のある所見を除き、病理組織学的検査によりばく露に関連する影響は見られず、 ばく露1週後に測定されたメトヘモグロビン濃度にも明らかな影響は認められていない (CICAD 20(2000))。以上の結果はいずれもガイダンス値範囲内に相当する用量であり、ガイダンス値上限付近での影響は不明である。したがって、データ不足のため「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-	ラットを用いた28日間反復経口投与試験(OECD TG 407)において、副腎重量の変化が示されているのみで、主要臓器の病理組織学的検査では投与に関連する変化はなく、高用量群の200 mg/kg/day(90日換算: 62.2 mg/kg/day)まで重大な毒性所見は認められていない(CICAD 20(2000))。また、ラットを用いた4週間蒸気吸入試験では、高用量群の60 mg/m ³ (90日換算: 0.018 mg/L)における喉甲介と鼻甲介に沿う上皮の扁平化生のある所見を除き、病理組織学的検査によりばく露に関連する影響は見られず、 11日目にはばく露後に測定されたメトヘモグロビン濃度にも明らかな影響は認められていない (CICAD 20(2000))。以上の結果はいずれもガイダンス値範囲内に相当する用量であり、ガイダンス値上限付近での影響は不明である。したがって、データ不足のため「分類できない」とした。	2016.3修正	
22A4086	パラターシャリブチル安息香酸	98-73-7	皮膚腐食性/刺激性	区分外	-	-	-	-	ウサギに試験物質を固体で 800 mg 、またはアルコールと鉱油の懸濁液で 300 mg を8時間適用したDraize試験で皮膚刺激性の兆候は見られず(EU-RAR(2009))。ウサギに500 mgを半閉塞により4時間適用した試験で皮膚反応を認めなかった(EU-RAR(2009))の記述に基づき、区分外とした。	区分外	-	-	-	ウサギに試験物質を固体で 800 mg/kg 、またはアルコールと鉱油の懸濁液で 300 mg/kg bw を8時間適用したDraize試験で皮膚刺激性の兆候は見られず(EU-RAR(2009))。ウサギに500 mgを半閉塞により4時間適用した試験で皮膚反応を認めなかった(EU-RAR(2009))の記述に基づき、区分外とした。	2016.3修正	
22A4086	パラターシャリブチル安息香酸	98-73-7	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B	-	警告	H320: 眼刺激	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用している場合を外すこと。その後洗浄を続けること。 P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。	ウサギの眼に100 mgを適用したドレイズ試験において 2匹中1匹に僅かな刺激を認めた のみ(EU-RAR(2009))であったが、100 mgを適用した別の試験(EU test guideline B5)では24時間6匹全例に 軽度 の結膜反応が見られ、2匹にグレード1または2の角膜混濁が見られた。これらは3日以内に回復したとの結果(EU-RAR(2009))に基づき区分2Bとした。	区分2B	-	警告	H320: 眼刺激	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用している場合を外すこと。その後洗浄を続けること。 P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。	ウサギの眼に100 mgを適用したドレイズ試験において 雌雄各1匹のウサギに100mgを適用したドレイズ試験において僅かな刺激を認めた のみ(EU-RAR(2009))であったが、100 mgを適用した別の試験(EU test guideline B5)では24時間6匹全例に 中程度 の結膜反応が見られ、2匹にグレード1または2の角膜混濁が見られた。これらは3日以内に回復したとの結果(EU-RAR(2009))に基づき区分2Bとした。	2016.3修正
22A4090	4-アミノピリジン	504-24-5	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分1(神経系)	健康有害性	危険	H370: 臓器の障害(神経系)	P307+P311: 暴露した場合: 医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P321: 特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	本物質は 多発性硬化症の歩行改善を目的とした治療薬 に使用されており、カリウムチャネルを遮断し、アセチルコリンと神経末端部のノルアドレナリンの放出を増加させ、副作用として自律神経系や筋肉への影響は小さいが中枢神経系に対しては、振戦、興奮、痙攣のような大きな影響を与えると記載されている(PATTY(5th, 2001))。約60 mgを摂取したヒト2人のうち1人が吐気、嘔吐、めまいなどと共に強直性間代性痙攣を発症したとの報告、また本物質による急性中毒として、筋痙攣、腹部痙攣、下肢感覚異常、筋緊張亢進、錯乱などが報告されている(HSDB(2010))。以上のヒトの情報から区分1(神経系)とした。	区分1(神経系)	健康有害性	危険	H370: 臓器の障害(神経系)	P307+P311: 暴露した場合: 医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P321: 特別な処置が必要である(このラベルの...を見よ)。 P405: 施錠して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	本物質は 多発性硬化症の歩行改善を目的とした治療薬(AMPYRA(4-アミノピリジン製剤)専用サイト情報(Acorda社 	

22A4090	4-アミノピリジン	504-24-5	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分1(神経系)	健康有害性	危険	H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(神経系)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501: 内容物/容器	本物質は多発性硬化症の歩行改善を目的とした治療薬に使用されており、カリウムチャネルを遮断し、アセチルコリンと神経末端部のノルアドレナリンの放出を増加させ、自律神経系や筋肉への影響は小さいが中枢神経系に対しては、振戦、興奮、痙攣のような大きな影響を与えると記載されている(PATY(5th, 2001))。副作用としてヒトの低用量(1日5-30 mg)摂取により、神経過敏、めまい、記憶変化、動脈硬化、末梢感覚異常が記載され、高用量では事故による中毒例で、上記の症状に加え脱力、切迫感、呼吸困難、激越などの症状が報告されている(EPA RED (2007))。以上のヒトの情報から区分1(神経系)とした。	区分1(神経系)	健康有害性	危険	H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(神経系)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501: 内容物/容器	本物質は多発性硬化症の歩行改善を目的とした治療薬(AMPYRA(4-アミノピリジン製剤)専用サイト情報(Acorda社 http://www.ampyra.com/home/)(Access on Sept. 2010))に使用されており、カリウムチャネルを遮断し、アセチルコリンと神経末端部のノルアドレナリンの放出を増加させ、自律神経系や筋肉への影響は小さいが中枢神経系に対しては、振戦、興奮、痙攣の小さな大きな影響を与えると記載されている(PATY(5th, 2001))。副作用としてヒトの低用量(1日5-30 mg)摂取により、神経過敏、めまい、記憶変化、動脈硬化、末梢感覚異常が記載され、高用量では事故による中毒例で、上記の症状に加え脱力、切迫感、呼吸困難、激越などの症状が報告されている(EPA RED (2007))。以上のヒトの情報から区分1(神経系)とした。	2016.3修正
22A4094	1,2,3-ベンゾトリアゾール	95-14-7	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2	感嘆符	警告	H319: 強い眼刺激	P305+P351+P338: 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用している場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337+P313: 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。	ウサギを用いた試験において角膜混濁、結膜、虹彩の発赤が認められた(DFGMAK-Doc. Vol.2(1991))との報告より区分2とした。なお、ウサギを用いた他の試験で刺激性スコア:81.0、26日後のスコア:31であるが、この値は砂によるような機械的刺激である(HSDB(2003))との報告もある。	区分2	感嘆符	警告	H319: 強い眼刺激	P305+P351+P338: 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用している場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P337+P313: 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。	ウサギを用いた試験において角膜混濁、結膜、虹彩の発赤が認められた(DFGMAK-Doc. Vol.2(1991))との報告より区分2とした。なお、ウサギを用いた他の試験で刺激性スコア:81.0、26日後のスコア:31であるが、この値はコントロールの塩、砂、砂礫の数値を超えているが、これは機械的刺激によるものである(HSDB(2003))との報告もある。	2016.3修正
22A4096	3-(4-クロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素	150-68-5	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分2(血液系)	健康有害性	警告	H373: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(血液系)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	ラットおよびマウスに13週間連続投与した試験において、リンパ球および造血組織への影響が、ラットで6000 ppm(300 mg/kg/day)以上、マウスでは12000 ppm(1800 mg/kg/day)以上といずれもガイダンス値範囲を超えた高用量で報告(NTP TR No.266(1988))されている。しかし、雄ラットに250-1000 ppm(12.5-50 mg/kg/day)を14ヵ月連続投与により、メヘモグロビン形成の増加と赤血球形態変化を伴う二次的貧血が認められ、組織学的には脾臓において溶血性貧血とメヘモグロビン血症に対する反応を示すヘモジリン沈着が観察され、さらに色素沈着は腎臓と肝臓でも認められ(HSDB(2002))。発現用量はガイダンス値範囲の区分2に相当であることから、区分2(血液系)とした。	区分2(血液系)	健康有害性	警告	H373: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(血液系)	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	ラットおよびマウスに13週間連続投与した試験において、リンパ球および造血組織への影響が、ラットで6000 ppm(300 mg/kg/day)以上、マウスでは12000 ppm(1800 mg/kg/day)以上といずれもガイダンス値範囲を超えた高用量で報告(NTP TR No.266(1988))されている。しかし、雄ラットに250-1000 ppm(12.5-50 mg/kg/day)を14ヵ月連続投与により、メヘモグロビン形成の増加と赤血球形態変化を伴う二次的貧血が認められ、組織学的には脾臓において溶血性貧血とメヘモグロビン血症に対する反応を示すヘモジリン沈着が観察され、さらに色素沈着は腎臓と肝臓でも認められ(HSDB(2002))。発現用量はガイダンス値範囲の区分2に相当であることから、区分2(血液系)とした。	2016.3修正
22A4097	トリスジクロロプロピルホスフェート	13674-87-8	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分外	-	-	-	-	ウサギ3匹に0.5 mLを適用した試験(OECD TG405, GLP)で、1時間後に全例で軽度の結膜発赤が見られたが24時間後に回復し、その他にばく露の影響はなかったとの報告(EU-RAR(2008))に基づき、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	ウサギ3匹に0.1 mLを適用した試験(OECD TG405, GLP)で、1時間後に全例で軽度の結膜発赤が見られたが24時間後に回復し、その他にばく露の影響はなかったとの報告(EU-RAR(2008))に基づき、区分外とした。	2016.3修正
22A4097	トリスジクロロプロピルホスフェート	13674-87-8	生殖毒性	区分外	-	-	-	-	妊娠ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験の結果、最高用量の400 mg/kgでは母体毒性として、体重増加量と摂餌量の有意な減少に加え死亡も見られ、吸収胚と骨化遅延が増加した。200 mg/kg以下の用量では胎仔死亡の増加はなく、胎仔の生育にも異常なく、奇形も見られなかった(SIAP(2009))。吸収胚の増加は死亡を含む顕著な母体毒性が見られた高用量のみでの影響のため分類根拠としなかった。さらに、ウサギに12週間経口投与により、交配、受胎、妊娠の指標に加え、黄体数、着床数、生存胎仔数、吸収胚数にも影響はなく、性機能・生殖能に悪影響が認められなかったとの報告(EU-RAR(2008))もあり、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	妊娠ラットの器官形成期に経口投与した発生毒性試験の結果、最高用量の400 mg/kgでは母体毒性として、体重増加量と摂餌量の有意な減少に加え死亡も見られ、吸収胚と骨化遅延が増加した。100 mg/kg以下の用量では胎仔死亡の増加はなく、胎仔の生育にも異常なく、奇形も見られなかった(SIAP(2009))。吸収胚の増加は死亡を含む顕著な母体毒性が見られた高用量のみでの影響のため分類根拠としなかった。さらに、ウサギに12週間経口投与により、交配、受胎、妊娠の指標に加え、黄体数、着床数、生存胎仔数、吸収胚数にも影響はなく、性機能・生殖能に悪影響が認められなかったとの報告(EU-RAR(2008))もあり、区分外とした。	2016.3修正
22A4098	N,N'-ジエチルチオ尿素	105-55-5	水生環境有害性 (長期間)	区分外	-	-	-	-	急速分解性に関する適切なデータが得られていないが、信頼性のある慢性毒性データは全てNOEC ≥ 1 mg/Lである(AQUIRE, 2012)ことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急速分解性に関する適切なデータが得られていないが、信頼性のある慢性毒性データは全てLOEC ≥ 1 mg/Lである(AQUIRE, 2012)ことから、区分外とした。	2016.3修正
22A4099	トリメチルチオ尿素	2489-77-2	水生環境有害性 (急性)	区分外	-	-	-	-	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 770 mg/L(AQUIRE, 2011)から区分外とした。	区分外	-	-	-	-	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 770 mg/L(AQUIRE, 2011)から区分外とした。	2016.3修正
22A4100	ジエチルジチオカルバミン酸ナトリウム	148-18-5	水生環境有害性 (急性)	区分1	環境	警告	H400: 水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 0.91 mg/L(AQUIRE, 2011)から区分1とした。	区分1	環境	警告	H400: 水生生物に非常に強い毒性	P273: 環境への放出を避けること。 P391: 漏出物を回収すること。 P501: 内容物/容器	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 0.91 mg/L(AQUIRE, 2011)から区分1とした。	2016.3修正

22A4101	ジエチルジテオカルバミン酸亜鉛	14324-55-1	水生環境有害性(急性)	区分1	環境	警告	H400:水生生物に非常に強い毒性	P273:環境への放出を避けること。 P391:漏出物を回収すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 0.24 mg/L (AQUIRE, 2011, HSDB, 2010) から区分1とした。	区分1	環境	警告	H400:水生生物に非常に強い毒性	P273:環境への放出を避けること。 P391:漏出物を回収すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 0.24 mg/L (AQUIRE, 2011, HSDB, 2010) から区分1とした。	2016.3修正
22A4104	バラ-アニスアルデヒド	123-11-5	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	H361:生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い	P308+P313:暴露又は暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。 P201:使用前に取扱説明書を入力すること。 P202:全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P281:指定された個人用保護具を使用すること。 P405:施錠して保管すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	ラットを用いた反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECDTG 422)において、一過性の流産、肝細胞肥大など親動物の一般毒性が認められた用量で、受胎率、産児数、分娩率、出産生児数の減少(500 mg/kg) (厚生省報告(Access on Oct. 2010))などの影響が認められことから、区分2とした。	区分2	健康有害性	警告	H361:生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い	P308+P313:暴露又は暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。 P201:使用前に取扱説明書を入力すること。 P202:全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 P281:指定された個人用保護具を使用すること。 P405:施錠して保管すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	ラットを用いた反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECDTG 422)において、一過性の流産、肝細胞肥大など親動物の一般毒性が認められた用量で、受胎率、産児数、分娩率、出産生児数の減少(500 mg/kg) (厚生省報告「4-メトキシベンズアルデヒドのラットを用いる反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験」(Access on Oct. 2010))などの影響が認められことから、区分2とした。	2016.3修正
22A4104	バラ-アニスアルデヒド	123-11-5	水生環境有害性(長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(良分解、BODによる分解度:99%(既存点検, 2001))、かつ生物蓄積性が低いと予想される(Log Kow = 1.79 (PHYSPROP Database, 2011)) ことから区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(良分解、BODによる分解度:99%(既存点検, 2001))、かつ生物蓄積性が低いと予想される(Log Kow = 1.79 (PHYSPROP Database, 2009)) ことから区分外とした。	2016.3修正
22A4108	クマリン	91-64-5	水生環境有害性(急性)	区分3	-	-	H402:水生生物に有害	P273:環境への放出を避けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 13.5 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分3とした。	区分3	-	-	H402:水生生物に有害	P273:環境への放出を避けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 13.5 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分3とした。	2016.3修正
22A4108	クマリン	91-64-5	水生環境有害性(長期間)	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(良分解、BODによる分解度:100%(既存点検, 1977))、かつ生物蓄積性が低いと予想される(Log Kow = 1.39 (PHYSPROP Database, 2011)) ことから区分外とした。	区分外	-	-	-	-	急性毒性区分3であるが、急速分解性があり(良分解、BODによる分解度:100%(既存点検, 1977))、かつ生物蓄積性が低いと予想される(Log Kow = 1.39 (PHYSPROP Database, 2011)) ことから区分外とした。	2016.3修正
22A4109	シトロネーラル	106-23-0	酸化性液体	分類対象外	-	-	-	-	フッ素及び塩素を含まず、酸素を含む有機化合物であるが、この酸素が炭素、水素以外の元素と化学結合していない。	分類対象外	-	-	-	-	フッ素及び塩素を含まず、酸素を含む有機化合物であるが、この酸素が炭素、水素以外の元素と化学結合していない。	2016.3修正
22A4111	1-デカナール	112-31-2	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-	-	in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験としては、エームス試験で陰性(JECFA FAS 48(2002))、チャイニーズハムスターの線維芽細胞を用いた染色体異常試験で陰性(JECFA FAS 40(1999))の報告がある。	分類できない	-	-	-	-	in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験としては、エームス試験で陰性(JECFA FAS 40(1999))、チャイニーズハムスターの線維芽細胞を用いた染色体異常試験で陰性(JECFA FAS 40(1999))の報告がある。	2016.3修正

22A4113	ベータフェニルエチルアルコール(別名:フェネチルアルコール)	60-12-8	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分2(肝臓、腎臓)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(肝臓、腎臓) H336: 眼気又はめまいのおそれ(麻酔作用)	P309+P311: 暴露したとき、又は気分が悪いとき: 医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P405: 施設して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。 P304+P340: 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P403+P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 P271: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。	ラットの急性経口毒性試験(LD50値は650-1430 mg/kg)において、肝臓および腎臓の変性が観察され、肝臓では、充血および軽度の脂肪変化、一方、腎臓では、髄質で尿細管壊死、皮質で尿細管細胞の混濁腫脹と円柱形成が認められた。LD50値からガイドランス区分2に相当する用量での所見であることから、区分2(肝臓、腎臓)とした。また、マウスの急性経口試験では、1~2 mg/kgの用量で1~5分以内にほとんどの動物に麻酔が生じたことから区分3(麻酔作用)とした。	区分2(肝臓、腎臓)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(肝臓、腎臓) H336: 眼気又はめまいのおそれ(麻酔作用)	P309+P311: 暴露したとき、又は気分が悪いとき: 医師に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗うこと。 P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P405: 施設して保管すること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。 P304+P340: 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P403+P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 P271: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。	ラットの急性経口毒性試験(LD50値は650-1430 mg/kg)において、肝臓および腎臓の変性が観察され、肝臓では、充血および軽度の脂肪変化、一方、腎臓では、髄質で尿細管壊死、皮質で尿細管細胞の混濁腫脹と円柱形成が認められた(UUCLID (2000))。LD50値からガイドランス区分2に相当する用量での所見であることから、区分2(肝臓、腎臓)とした。また、マウスの急性経口試験では、1~2 mg/kgの用量で1~5分以内にほとんどの動物に麻酔が生じた(UUCLID (2000))ことから区分3(麻酔作用)とした。	2016.3修正
22A4118	ローダミンB	81-88-9	水生環境有害性(急性)	区分3	-	-	H402: 水生生物に有害	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 22.9 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分3とした。	区分3	-	-	H402: 水生生物に有害	P273: 環境への放出を避けること。 P501: 内容物/容器を...に廃棄すること。	甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50 = 22.9 mg/L (AQUIRE, 2011) から区分3とした。	2016.3修正
22A4119	トリエチルホスフェート	78-40-0	生殖細胞変異原性	区分外	-	-	-	-	2系統のマウスを用いた腹腔内投与による優性致死試験(生殖細胞in vivo 経世代変異原性試験)で両系統とも陰性(BUA 37(1989))、マウスの腹腔内投与による 精母細胞 を用いた染色体異常試験(生殖細胞in vivo 変異原性試験)で陰性(BUA 37(1989))、およびマウスの骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞in vivo 変異原性試験)で陰性(SIDS (Access on Nov. 2010))の結果に基づき、区分外とした。なお、in vitro試験として、エームス試験で陰性(NTP DB (1982))、V79細胞を用いたHPRT試験で陰性の結果が報告されている。	区分外	-	-	-	2系統のマウスを用いた腹腔内投与による優性致死試験(生殖細胞in vivo 経世代変異原性試験)で両系統とも陰性(BUA 37(1989))、マウスの腹腔内投与による 精母細胞 を用いた染色体異常試験(生殖細胞in vivo 変異原性試験)で陰性(BUA 37(1989))、およびマウスの骨髄細胞を用いた染色体異常試験(体細胞in vivo 変異原性試験)で陰性(SIDS (Access on Nov. 2010))の結果に基づき、区分外とした。なお、in vitro試験として、エームス試験で陰性(NTP DB (1982))、V79細胞を用いたHPRT試験で陰性の結果が報告されている。	2016.3修正	
22A4121	アクリル酸2-メトキシエチル	3121-61-7	生殖細胞変異原性	分類できない	-	-	-	-	in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 試験では、Ames試験で陰性(NTP DB (Access on Nov. 2010))の報告がある。	分類できない	-	-	-	-	in vivo 試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro 試験では、Ames試験で陰性(NTP DB (Access on Nov. 2010))の報告がある。	2016.3修正
22A4132	アルミニウムトリセカンダリブトキシド	2269-22-9	生殖毒性	分類できない	-	-	-	-	データなし。当該物質は容易に加水分解を受け、水酸化アルミニウム及び2-ブタノールを生じる(Ullmanns(E) (6th, 2003))。なお、水酸化アルミニウムに関しては、マウスの妊娠期間中の経口投与(66.5/266mg/kg/day)により、母数、 胎児及び出生仔に毒性及び奇形は認められなかったとの報告 、マウスの妊娠期間中の経口投与(57.5mg/kg/day)により、 毒性は認められなかったとの報告 、ラットの妊娠期間中の経口投与(384mg/kg/day)により、 出生仔の体重減少及び骨の硬化の増加が認められたとの報告 、ラットの妊娠期間中の経口投与(192/768mg/kg)により、NOEL: 768 mg/kg/dayが報告されている(以上、JEOPFA FAS 58(2007))。また、2-ブタノールの既存分類では、「ラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では生殖能には影響なく、最小限の影響(出生児の発育遅延)のみが認められた。一方、ラットの妊娠期間中に吸入ばく露した試験では、母数毒性がみられる用量で生存仔の減少及び吸収胚の増加が認められた(PATY (4th, 1994)、ACGIH (2001))。生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。区分2。」となっている。	分類できない	-	-	-	データなし。当該物質は容易に加水分解を受け、水酸化アルミニウム及び2-ブタノールを生じる(Ullmanns(E) (6th, 2003))。なお、水酸化アルミニウムに関しては、マウスの妊娠期間中の経口投与(66.5/266mg/kg/day)により、母数、 胎児に毒性及び奇形は認められなかったとの報告 、マウスの妊娠期間中の経口投与(57.5mg/kg/day)により、 毒性は認められなかったとの報告 、ラットの妊娠期間中の経口投与(384mg/kg/day)により、 胎児体重の減少、骨格異常の増加が認められたとの報告 、ラットの妊娠期間中の経口投与(192/768mg/kg)により、NOEL: 768 mg/kg/dayが報告されている(以上、JEOPFA FAS 58(2007))。また、2-ブタノールの既存分類では、「ラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では生殖能には影響なく、最小限の影響(出生児の発育遅延)のみが認められた。一方、ラットの妊娠期間中に吸入ばく露した試験では、母数毒性がみられる用量で生存仔の減少及び吸収胚の増加が認められた(PATY (4th, 1994)、ACGIH (2001))。生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。区分2。」となっている。	2016.3修正	

22A4144	2-エチルヘキサ-1,3-ジオール(別名:オクタジオール)	94-96-2	特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	-	-	-	-	データ不足により分類できない。なお、ラットを用いた30日間経口投与試験における影響は700 mg/kg/dayでの体重増加抑制のみで、病理組織学的検査は未実施であり、2年間の経口投与試験では、4%(2000 mg/kg/day)以下の用量で投与に関連した臓器障害は認められなかった(DFGMAK-Doc. 5(1993))と報告されている。また、ウサギに1880 mg/kg/dayまたは3670 mg/kg/dayを90日間経皮投与した試験では、半数の動物が死亡し、肝臓と腎臓に障害が認められたとの記載はあるが、詳細は不明で病理組織学的所見もない(DFGMAK-Doc. 5(1993))。	分類できない	-	-	-	データ不足により分類できない。なお、ラットを用いた30日間経口投与試験における影響は700 mg/kg/dayでの体重増加抑制のみで、病理組織学的検査は未実施であり、2年間の経口投与試験では、4%(2000 mg/kg/day)以下の用量で投与に関連した臓器障害は認められなかった(DFGMAK-Doc. 5(1993))と報告されている。また、ウサギに1880 mg/kg/dayまたは3760 mg/kg/dayを90日間経皮投与した試験では、半数の動物が死亡し、肝臓と腎臓に障害が認められたとの記載はあるが、詳細は不明で病理組織学的所見もない(DFGMAK-Doc. 5(1993))。	2016.3修正	
22A4155	ジビニルスルホン	77-77-0	自己反応性化学品	分類できない	-	-	-	-	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)および(S=O)を含むがデータがなく分類できない。なお、保存中徐々に重合する(有機化合物辞典(1985))という情報がある。	分類できない	-	-	-	自己反応性に関わる原子団(不飽和結合)および(S=O)を含むがデータがなく分類できない。なお、保存中徐々に重合する(有機化合物辞典(1985))という情報がある。	2016.3修正	
22A4159	チオグリコール酸 2-エチルヘキシル	7659-86-1	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分外	-	-	-	-	ウサギ3匹を用いた眼刺激性試験(OECD TG404、GLP準拠)において、刺激性の最大平均スコア(Modified Maximum Average Score)は0/110(ECETOC TR 48(1998))であり、眼に反応を認めず、刺激性なし(not irritating)との結果(UCLID(2000))に基づき、区分外とした。	区分外	-	-	-	ウサギ3匹を用いた眼刺激性試験(OECD TG405、GLP準拠)において、刺激性の最大平均スコア(Modified Maximum Average Score)は0/110(ECETOC TR 48(1998))であり、眼に反応を認めず、刺激性なし(not irritating)との結果(UCLID(2000))に基づき、区分外とした。	2016.3修正	
22A4163	乳酸メチル	547-64-8	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	甲殻類(ミジンコ)による48時間 EC50 = 748 mg/L (AQUIRE, 2011) であることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	甲殻類(ミジンコ)による48時間 EC50 = 749 mg/L (AQUIRE, 2011) であることから、区分外とした。	2016.3修正	
22A4170	マレイン酸ジメチルエステル	624-48-6	特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類できない	-	-	-	-	ラットに0.5gまたは2gを経皮投与により、死亡は元より全身影響も何ら認められなかった(PATY(5th, 2001))との結果から、経皮経路では区分外相当であるが、他経路(経口、吸入)についてのデータがないので、特定標的臓器毒性(単回暴露)の分類としては「分類できない」とした。	分類できない	-	-	-	ラットに0.5g/kgまたは2g/kgを経皮投与により、死亡は元より全身影響も何ら認められなかった(PATY(5th, 2001))との結果から、経皮経路では区分外相当であるが、他経路(経口、吸入)についてのデータがないので、特定標的臓器毒性(単回暴露)の分類としては「分類できない」とした。	2016.3修正	
22A4171	ジシアノメタン(別名:マロノニトロル)	109-77-3	水生環境有害性(急性)	区分1	環境	警告	H400:水生生物に非常に強い毒性	P273:環境への放出を避けること。 P391:漏出物を回収すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	魚類(ファットヘッドミノ)による96時間 LC50 = 0.52 mg/L であることから(HSDB, 2003)、区分1とした。	区分1	環境	警告	H400:水生生物に非常に強い毒性	P273:環境への放出を避けること。 P391:漏出物を回収すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	2016.3修正	
22A4174	無水酪酸	106-31-0	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分2(肺)	健康有害性	警告	H371:臓器の障害のおそれ(肺)	P309+P311:暴露したとき、又は気分が悪いとき:医師に連絡すること。 P260:粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264:取扱後は...よく洗うこと。 P270:この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P405:施錠して保管すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	本物質自身のデータはないが、ノルマル酪酸のウサギの吸入暴露試験(エアロゾル)で、区分2のガイダンス値を超えた40mg/L/1.5h(4時間換算値15mg/L/4h)の用量で気管支炎、肺気腫の兆候が見られた(PATY(5th, 2001))との報告はあるが、他のウサギの吸入試験で区分1のガイダンス値範囲内の0.4mg/L/1.4h(4時間換算値0.24mg/L)の用量で肺のうっ血、浮腫、無気腫、肺水腫が見られた(UCLID(2000))の報告があり、区分1(肺)に相当するが、リスト2のデータであることから区分2(肺)とした。	区分2(肺)	健康有害性	警告	H371:臓器の障害のおそれ(肺)	P309+P311:暴露したとき、又は気分が悪いとき:医師に連絡すること。 P260:粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264:取扱後は...よく洗うこと。 P270:この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P405:施錠して保管すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	本物質自身のデータはないが、ノルマル酪酸のウサギの吸入暴露試験(エアロゾル)で、区分2のガイダンス値を超えた40mg/L/1.5h(4時間換算値15mg/L/4h)の用量で気管支の拡張、肺気腫の兆候が見られた(PATY(5th, 2001))との報告はあるが、他のウサギの吸入試験で区分1のガイダンス値範囲内の0.4mg/L/1.4h(4時間換算値0.24mg/L)の用量で肺のうっ血、浮腫、無気腫、肺水腫が見られた(UCLID(2000))の報告があり、区分1(肺)に相当するが、リスト2のデータであることから区分2(肺)とした。	2016.3修正
22A4174	無水酪酸	106-31-0	水生環境有害性(急性)	区分3	-	-	H402:水生生物に有害	P273:環境への放出を避けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	本物質は水中で速やかに加水分解してn-酪酸(CAS No. 107-92-6)となる(水中での半減期 = 1.679分(pH = 8)、16.789分(pH = 7)(HYDROWIN))。無水イソ酪酸のデータはないが、イソ酪酸の薬類(セネデムス)72時間EC50 = 45 mg/L(無水イソ酪酸換算 = 39.9 mg/L)(UCLID, 2000) であることから、区分3とした。	区分3	-	-	H402:水生生物に有害	P273:環境への放出を避けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること。	本物質は水中で速やかに加水分解してn-酪酸(CAS No. 107-92-6)となる(水中での半減期 = 1.679分(pH = 8)、16.789分(pH = 7)(HYDROWIN))。無水酪酸のデータはないが、n-酪酸の薬類(セネデムス)72時間EC50 = 46.7 mg/L (UCLID, 2000)(無水酪酸換算 = 26 mg/L) であることから、区分3とした。	2016.3修正
22A4176	ターシャリ-ブチルペロキシベンゾアート	614-45-9	皮膚感作性	分類できない	-	-	-	-	データ不足。なお、皮膚感作性試験として、試験法など詳細は不明であるがラットで刺激性なし(not an irritant)との報告(PATY(5th, 2001))がある。	分類できない	-	-	-	データ不足。なお、皮膚感作性試験として、試験法など詳細は不明であるがラットで感作性なし(not sensitizer)との報告(PATY(5th, 2001))がある。	2016.3修正	

22A4178	パラ-アミノ安息香酸エチルエステル	94-09-7	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(血液)	健康有害性	危険	H372:長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(血液)	P260:粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264:取扱後は...よく洗うこと。 P270:この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314:気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	本剤の医薬品添付文書には内服した場合の副作用として血液(メトヘモグロビン血症)が記載されている(医療用医薬品集(2010)、HSDB(2005))ことに基づき区分1(血液)とした。	区分1(血液)	健康有害性	危険	H372:長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(血液)	P260:粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264:取扱後は...よく洗うこと。 P270:この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P314:気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	本剤の医薬品添付文書には内服した場合の副作用として血液(メトヘモグロビン血症)が記載されている(医療用医薬品集(財団法人日本医薬品情報センター))(2010)、HSDB(2005))ことに基づき区分1(血液)とした。	2016.3修正		
22A4179	オルト-アミノフェノール	95-55-6	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分2(血液)	健康有害性	警告	H373:長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(血液)	P260:粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P314:気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	o-アミノフェノールの吸入による過剰暴露はメトヘモグロビン血症を起こす可能性がある(PATTY(5th, 2001))。また、アミノフェノールは酸素運搬能を低下(メトヘモグロビン血症)を起こす(SITTIG(5th, 2008))との記載がある。以上の情報に加え、ラットに1か月間にわたりガイダンス値区分2に相当する130 mg/kg/day(90日換算:43.3 mg/kg/day)を経口投与した試験で、末梢血の変化として赤血球数の減少とメトヘモグロビン濃度の増加が認められた(Journal of The American College of Toxicology. vol7, p 279-333(1988))ことに基づき区分2(血液)とした。	区分2(血液)	健康有害性	警告	H373:長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(血液)	P260:粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P314:気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	o-アミノフェノールの吸入による過剰暴露はメトヘモグロビン血症を起こす可能性がある(PATTY(4th, 2001))。また、アミノフェノールは酸素運搬能を低下(メトヘモグロビン血症)を起こす(SITTIG(5th, 2008))との記載がある。以上の情報に加え、ラットに1か月間にわたりガイダンス値区分2に相当する130 mg/kg/day(90日換算:43.3 mg/kg/day)を経口投与した試験で、末梢血の変化として赤血球数の減少とメトヘモグロビン濃度の増加が認められた(Journal of The American College of Toxicology. vol7, p 279-333(1988))ことに基づき区分2(血液)とした。	2016.3修正		
22A4194	メチルエンドメチレンテトラヒドロフタル酸無水物	25134-21-8	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	-	魚類(ファットヘッドミノー)による96時間LC50=210 mg/L(AQUIRE, 2011)であることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	-	データなし	2016.3修正
22A4194	メチルエンドメチレンテトラヒドロフタル酸無水物	25134-21-8	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	-	急性毒性区分外であり、難水溶性でない(水溶解度=653 mg/L(PHYSPROP Database, 2011))ことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	-	データなし	2016.3修正
22A4203	1,3-ジクロロプロパン	142-28-9	水生環境有害性(急性)	区分3	-	-	H402:水生生物に有害	P273:環境への放出を避けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	甲殻類(オオミジンコ)の96時間LC50=39 mg/L(ECETOC TR91, 2003)から区分3とした。	区分3	-	-	H402:水生生物に有害	P273:環境への放出を避けること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	甲殻類(オオミジンコ)の24時間LC50=39 mg/L(ECETOC TR91, 2003)から区分3とした。	2016.3修正		
22B4513	1,3-ジクロロプロパン	542-75-6	水生環境有害性(急性)	区分1	環境	警告	H400:水生生物に非常に強い毒性	P273:環境への放出を避けること。 P391:漏出物を回収すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50=0.09mg/L(EHC 146, 1993, 他)であることから、区分1とした。	区分1	環境	警告	H400:水生生物に非常に強い毒性	P273:環境への放出を避けること。 P391:漏出物を回収すること。 P501:内容物/容器を...に廃棄すること	甲殻類(オオミジンコ)での48時間LC50=0.09mg/L(EHC 146, 1993, 他)であることから、区分1とした。	2016.3修正		
22B4520	ターシャリブタノール	75-65-0	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	-	魚類(ファットヘッドミノー)での96時間LC50=6410mg/L(有害性評価書, 2007)、甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50=5504mg/L(有害性評価書, 2007)、藻類(セネデスマス)での72時間ErC50>1000mg/Lであることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	-	魚類(ファットヘッドミノー)での96時間LC50=6410mg/L(有害性評価書, 2007)、甲殻類(オオミジンコ)での48時間EC50=5504mg/L(有害性評価書, 2007)、藻類(セネデスマス)での72時間ErC50>1000mg/L(有害性評価書, 2007)であることから、区分外とした。	2016.3修正
22B4521	硝酸カリウム	7757-79-1	水生環境有害性(長期間)	区分外	-	-	-	-	-	難水溶性でなく(水溶解度=357000mL(SIDS, 2008))、急性毒性が低いことから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	-	難水溶性でなく(水溶解度=357000mg/L(SIDS, 2008))、急性毒性が低いことから、区分外とした。	2016.3修正
22B4524	硝酸カルシウム	10124-37-5	水生環境有害性(急性)	区分外	-	-	-	-	-	魚類(ブルーギル)での96時間LC50=2400(AQUIRE, 2010)であることから、区分外とした。	区分外	-	-	-	-	-	魚類(ブルーギル)での96時間LC50=2400mg/L(AQUIRE, 2010)であることから、区分外とした。	2016.3修正
22A4021	亜リン酸ホスホン酸(互変異性体:亜リン酸)	13598-36-2, 10294-56-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2024.4 CASRNの紐づけ及び名称修正	